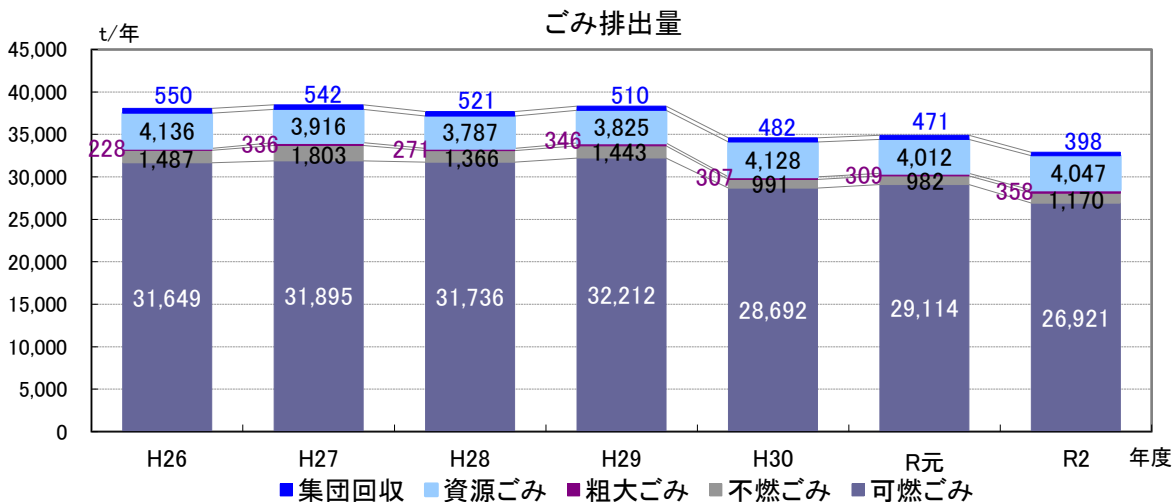


1) 年間ごみ排出量

当市の総ごみ排出量（家庭系ごみ、事業系ごみ、資源物集団回収の和）は、平成30年度
 の家庭系ごみ有料化及び事業系ごみ手数料改定の効果等による減少後、横ばいとなりました
 が、令和2年度はコロナ禍のため、家庭系ごみが増加したものの、事業系ごみは大きく
 減少したため、全体では減少となりました。

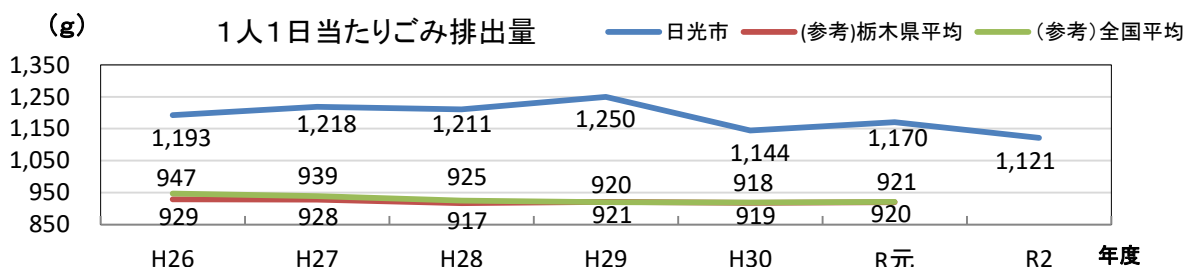
コロナ収束後も見据え、引き続きごみの減量化と資源化の取組を推進します。



市民1人1日当たりのごみ排出量(単位:g/人・日)

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
年間ごみ排出量(t/年)	38,050	38,492	37,681	38,336	34,600	34,888	32,894
人口(人)	87,414	86,327	85,268	84,043	82,839	81,711	80,418
1人1日当たりごみ排出量	1,193	1,218	1,211	1,250	1,144	1,170	1,121
栃木県平均 ※	929	928	917	921	918	920	-
全国平均 ※	947	939	925	920	919	921	-

※令和2年度は、国・県の公表資料が未発表のため、令和元年度までの数値 出典:全国平均…環境省「日本の廃棄物処理」
 栃木県平均…栃木県「とちぎの廃棄物」



家庭系・事業系ごみの量(単位:t)

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
家庭系ごみ	燃えるごみ	20,192	19,957	19,606	20,209	16,007	16,484
	燃えないごみ	1,051	1,421	994	1,124	785	797
	資源物	3,957	3,720	3,573	3,540	4,212	4,126
	粗大ごみ	228	336	271	346	282	276
	合計	25,428	25,434	24,444	25,219	21,286	21,310
事業系ごみ	燃えるごみ	11,457	11,938	12,130	12,003	12,685	10,437
	燃えないごみ	436	382	372	319	231	186
	資源物	179	196	214	285	398	319
	合計	12,072	12,516	12,716	12,607	13,314	10,942

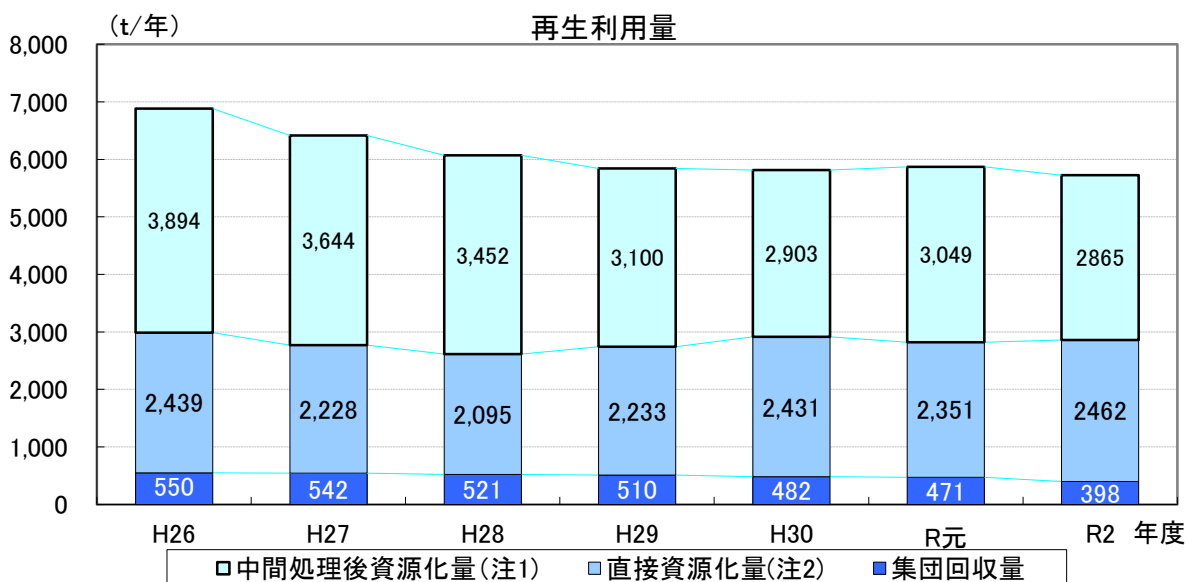
2) 再生利用

当市のごみ処理における再生利用（資源化）には、集団回収、直接資源化、中間処理後の資源化と3つがあります。

直接資源化とは、収集あるいは搬入された資源ごみの内、中間処理をせずに直接業者等へ引き渡され資源化されるものです。中間処理後の資源化とは、破碎、圧縮などの処理を経て資源化されるものです。

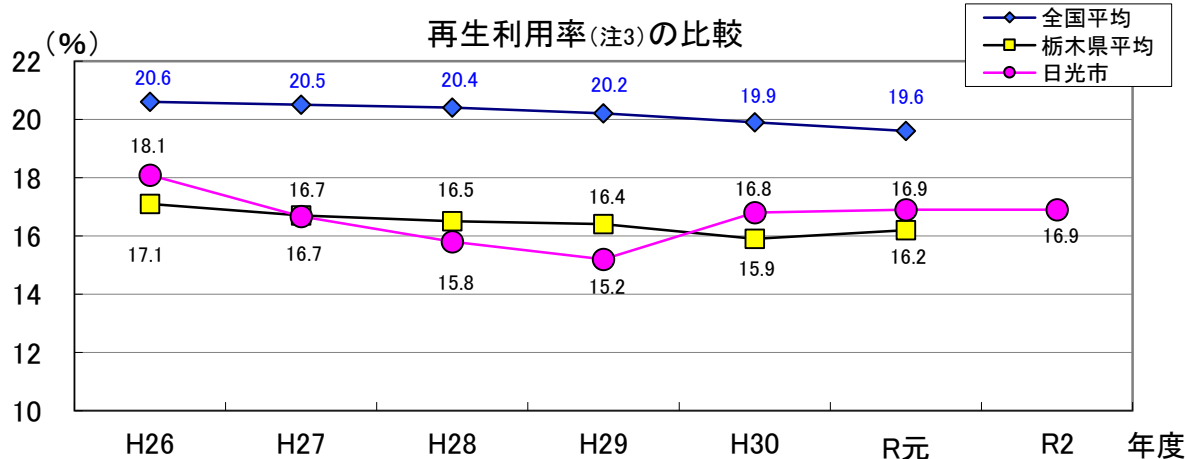
再生利用量については、平成29年度まで減少、その後は一定の水準となっています。再生利用率についても、平成29年度までは同様の動きとなりましたが、平成30年度の家系系ごみ有料化及び事業系ごみ手数料改定等により、ごみの分別が促進されたことから上昇、その後同水準となっています。

平成29年10月に、リサイクルセンター粗大不燃ごみ処理施設で、スプレー缶等引火物が原因と思われる火災事故が発生しました。事故の再発防止のため、スプレー缶等を排出の際は、中身を使い切り、缶に穴を開けていただくよう改めてお願いをいたしました。



(注1)中間処理後資源化量:クリーンセンターなどの施設において、破碎、圧縮などの処理を加えて資源化されたものの量。

(注2)直接資源化量:収集あるいは直接搬入された資源ごみうち、中間処理施設で処理されず、直接業者等へ売却などされて資源化されたものの量。



(注3) 再生利用率: (集団回収量+直接資源化量+中間処理後資源化量) ÷ 総ごみ排出量 × 100

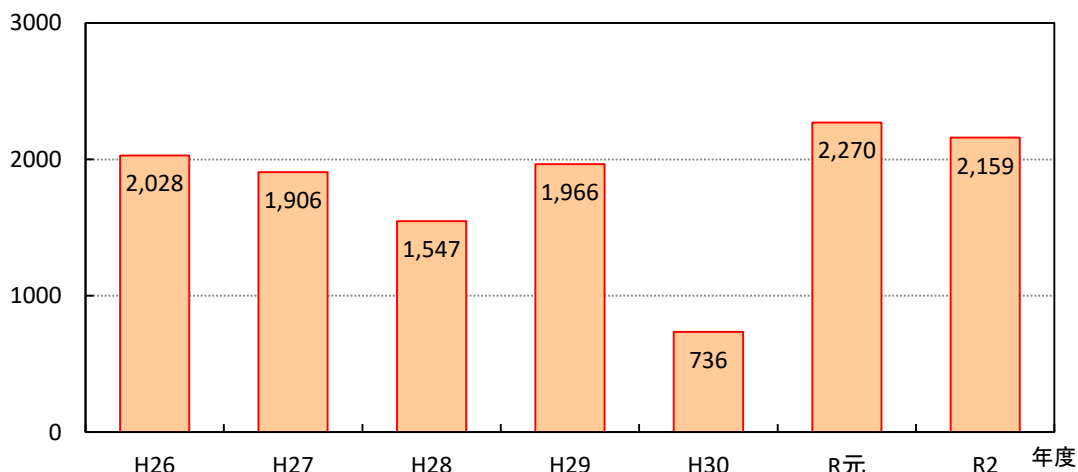
※令和2年度は、国・県の公表資料が未発表のため、令和元年度までの数値 出典:一般廃棄物実態調査(環境省)

3) 最終処分

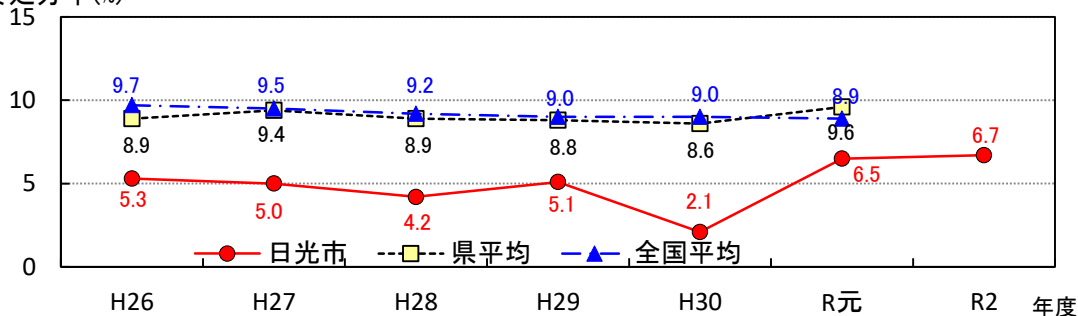
最終処分量は、平成22年度の新クリーンセンター稼働に伴い、焼却灰を溶融スラグとして再生利用を開始したことから、大きく減少しました。その後は2,000t前後の水準にあります。平成30年度については、リサイクルセンター粗大・不燃ごみ処理施設が稼働しておらず、クリーンセンター可燃ごみ処理施設の排出分のみを計上しことから大きく減少しています。令和元年度以降はリサイクルセンターに貯留していた分を含め処分したことにより、増量しました。

最終処分場は、日光市リサイクルセンターの敷地内に保有していますが、埋立可能な残容量が少ないことから、災害等の不測の事態に対応するため、処分場の余力を残した残地管理が必要となります。今後、新たな最終処分場を建設することが難しいことから、民間最終処分業者に委託し、残容量を確保しています。

最終処分量(t/年)



最終処分率(%)



※令和2年度は国・県の公表資料が未発表のため、令和元年度までの数値

出典：一般廃棄物実態調査(環境省)

日光市クリーンセンター(平成22年度稼働開始)



※焼却灰の有効利用

焼却灰の減量や無害化を図るため、焼却灰を炉内で溶融し、スラグ(無害なガラス質の粒)にします。スラグはアスファルト混合物や道路の路盤材、コンクリート製品の骨材などに利用されます。

4) 環境美化

当市では、環境交流都市として、きれいで美しい自然景観やまちなみを確保するため、全市クリーン大作戦を実施しています。

また、快適な居住環境の維持向上と協働のまちづくりを進めていくため、クリーンパートナー制度により、市内の団体や事業所のボランティアによる公共施設の美化活動等を進めています。

*令和2年度は、コロナ禍のためクリーン大作戦は中止し、代替措置として各自治会等の地域内清掃活動による粗大ごみ等の無料搬入受入を行いました。

(1) 全市クリーン大作戦

日光市では、市民参加による環境美化活動として、毎年、夏季（6月第1日曜日）及び秋季（11月の第2日曜日）に一斉清掃活動を実施しています。

全市クリーン大作戦への参加状況

	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
夏季	団体数	216	210	204	207	208	208	0
	参加者数	20,225	19,935	25,916	18,274	17,997	18,190	0
秋季	団体数	117	147	140	146	146	152	0
	参加者数	11,941	14,176	13,640	13,488	13,243	14,196	0
計	団体数	333	357	344	353	354	360	0
	参加者数	32,166	34,111	39,556	31,762	31,240	32,386	0

(2) クリーンパートナーへの登録団体数

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
市民団体	7	6	7	7	7	7	7
事業所数	36	38	40	40	42	42	43
団体数計	43	44	47	47	49	49	50

5) ごみ処理経費

ごみの収集、焼却、最終処分等に係る経費は、令和元年度で約16億かかっており、市民1人当たりのごみ処理経費は社会情勢の変化や消費税増税などにより、増加傾向となっています。

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
処理及び維持管理費合計(千円)	1,380,177	1,402,169	1,271,609	1,434,429	1,544,879	1,647,999	1,622,940
その他(千円)	11,179	12,239	42,434	1,158	39,706	890	644
合計(千円)	1,391,356	1,414,408	1,314,043	1,435,587	1,584,585	1,648,889	1,623,584
総ごみ排出量(t)	38,050	38,492	37,681	38,336	34,600	34,888	32,894
市民一人当たりの経費(千円)	15.9	16.4	15.4	17.1	19.1	20.2	20.2
栃木県平均(千円)	11.1	15.3	13.0	12.3	12.2	11.3	-
全国平均(千円)	15.2	15.2	15.3	15.5	15.1	13.2	-

※令和2年度は、国・県の公表資料が未発表のため、令和元年度までの数値 出典：一般廃棄物実態調査（環境省）

